

# 挑む!

トランスジェンダーの弁護士

仲岡 しゅんさん(31)

## 法の枠超えマイノリティーを守る

真っ赤な口紅に腰までのびた長い髪、パンツスーツ姿で拘留所や裁判所を行き来する。「これが私の勝負服」男性として生まれたが、女性として生きるMTF(Male to Female)。「大阪を拠点に刑事や民事の裁判だけではなく、LGBT(性的少数者)の受刑者の処遇見直し、同性間の紛争解決に走り回る。「異性間の婚約破棄は損害賠償請求できませんが、同性間には婚約自体が難しい。法の枠組みだけでは解決できないことも多い」



大阪府出身。障害者のグループホームでのヘルパー、学童保育指導員を経て15年に弁護士登録。大阪市北区のなにわばし国際合同法律事務所にも所属する。

小学生までは「普通の男の子」と思っていた。だが、女の子を恋愛対象に見ることができなかった。大学生のとき、「トランスジェンダー(性別越境者)」という言葉を知り、初めて自分の存在を肯定された気がした。トランスジェンダーの人に、職業の選択肢が少ないのはおかしいと思った。資格があれば自分のままで働くこともできると考え、弁護士を目指した。だが、就職活動では差別も感じた。ある事務所の不採用の理由に「うちが保守的だから」と伝え聞いた。落ち込んでいたとき、今の事務所から「社会のあり方に疑問を持てる、闘う弁護士が欲しい」と誘われた。「訴訟は手段のひとつ。型にはまらず、女性やマイノリティーを泣き寝入りさせない弁護士になりたい」

文・写真 大貫聡子

記者から

講演会は軽妙トークで爆笑の渦。強さに裏打ちされた優しさに、つい悩みを打ち明けたくなる。